

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2020年12月7日】第66号



子どもたちの様子はショートムービー(動画)で

新型コロナウイルス感染防止のため、農大稲花小へのご来校者受け入れは残念ながら制限が続いています。保護者の皆様についても、それは同じです。授業参観や担任との面談などもZoomで行っています。そのため、折々、子どもたちの様子を画像や、ショートムービー(動画)で配信して、学校の様子をお伝えするようにしています。先週は3本のショートムービーを配信しました。

これらのショートムービーは、個人情報保護の観点から、保護者だけが閲覧できる「在校生メニュー」での配信となっていますが、保護者の方々からは、子どもたちの学校の様子がわかると喜んでいただいています。このほか、この「在校生メニュー」では、各学年の学年だより、保健室だより、スクールカウンセラー通信「cocoroほっと」などに加えて、校外学習の様子ほかを保護者の皆様にお届けしています。10月に体験学習として訪問した「東京農業大学伊勢原農場」では、2年生の一人ひとりが「気に入った場所」を探しタブレットで撮影してきました。その画像に各自が説明をつけた「作品」も、「在校生メニュー」で公開しています。

本校は基本的にはペーパーレスを目指しています。インターネットの良さを大いに活かし、これからも学校の様子や様々な情報を配信してきたいと考えています。

「東京農業大学教育振興資金」へのご寄付をお願いしています

「東京農業大学教育振興資金」へのご寄付について、在校生の保護者に加えて、農大稲花小の教育に賛同してくださる個人・企業他の皆様にも広くご理解をお願いしています。昨年度は、1期生の多くの保護者様からのご寄付に加えて、ご理解いただいた学外の方からもご寄付をいただき感謝したところです。ご寄付者の中には遠隔地からご寄付をくださった方もいらっしゃいました。

今年度は、残念ながら一斉臨時休業があり、また、対面での保護者会を開催できなかったため、ご寄付についてお願い申し上げる機会がございました。そのため、ご寄付の状況は昨年度の実績を下回っております。保護者の皆様、また、本校の教育を応援してくださる方には、改めてご寄付についてご検討いただければ幸いです。

教育振興資金は、農大稲花小の教育環境整備に利用させていただくための資金です。そのため、ご寄付はどなたにも、いつでも、何度でもしていただくことができます。免税の処置などもございますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

東京農業大学稲花小学校教育振興資金：<https://bokin.nodai.ac.jp/toka>

ミカンとライムでミニ食育講義

11月26日(木)、東京農業大学国際農業開発学科の志和地弘信教授が来校、1年生の子どもたちにミカンとライムを使って、ミニ食育講座をしていただきました。パッションフルーツを使ったミニ食育講座を覚えている子どもたちは、今日、何のお話をされるのか興味津々で先生をお迎えしました。



先生には、カンキツの故郷がインドの周辺であること、1000以上の種類があること、しかし、温州ミカンのように種のない種類は珍しいことなどをお話いただきました。そして、皮を剥かずに中の袋の数を当てる方法も教えてくださいました。子どもたちから元気な質問もたくさん出たところで、ミカンとライムとお土産にいただきましたが、ご家庭での様子はいかがでしたでしょうか。無農薬のライムはなかなか手に入りませんね。



ミカンとライムを昨年に続きご提供くださったのは、熊本県水俣市でカンキツを栽培し、その加工品、さらにピールなどを手掛ける福田農場です。60年以上の歴史を持つ観光農園福田農場の三代目である東京農業大学の校友(卒業生)の福田浩樹様のご厚意によるものです。

福田農場：<https://www.fukuda-farm.co.jp/>

稲花タイムが紹介されました

12月2日(水)、日本林業調査会の新聞「林政ニュース642号」に、稲花タイムで東京農業大学森林総合化学科大林宏也教授にご指導いただいたツキ板を使った授業(11月5日)が紹介されました。題して、「8種類のツキ板を教材に活用、昨年4月開校の稲花小学校」。大林先生からは「子供

達は8種類のツキ板の違いをきちんと区別して扱っていた。観察力や発想力を育むことができる」といううれしいコメントもありました。

林政ニュース：<http://www.j-fic.com/rinseibn/rn642-pdf.html>

光で甘さがわかる！

12月3日(木)、農大稲花小の子どもたちは、静岡県にある「JAはいなん」のミカンを一つずつ持ち帰りました。静岡県在住の校友(卒業生)から頂戴した、光センサーによって選別されたミカンです。私たちは、食べてみなくてはミカンの甘さはわかりません。しかし、皮をむいて味見をしたミカンを売ることはできません。その時、活躍するのが光センサーです。食べなくても甘さがわかる機械、光センサーによっておいしいものを判別しているそうです。

農業や農学・生命科学の魅力は播種から収穫までだけでなく、様々な生き物、加工、六次産業化、あるいは環境保全、国際協力と広がっていることです。ハイテクの活用もその一つといえるでしょう。

これからは農学と工学の接点にも関心をもつ子どもたちも増えるものと期待しています。

JAハイナン：<https://hainan.ja-shizuoka.or.jp/about/over/>

育て！ きぬおとめ(帛乙女)

図書室前に今、里芋が飾られ水栽培されています。五泉市役所農林課から頂戴した2株のうち、東京農業大学を経て、本校にお届けいただいた1株です。五泉市はボタンの苗木栽培で全国一位を誇っていますが、サトイモ(品種 帛乙女)の生産も盛んです。幻のサトイモともいわれ、食べてもおいしいそうですが、今、飾られているのは縁起物の観賞用サトイモです。大切に育て、観察していきたいですね。



新潟県五泉市：<https://www.city.gosen.lg.jp/organization/12/7/1/1/1772.html>

校長 夏秋 啓子